

# 延岡市学校教育研修所

I	研究主題と副題	12-1
II	主題設定の理由	12-1
III	研究目標	12-1
IV	研究仮説	12-1
V	研究組織	12-2
VI	研究構想	12-2
VII	研究内容	12-3
1	基本的な考え方	12-3
2	各教科における取組	12-4
(1)	国語科研究班	12-4
(2)	社会科研究班	12-6
(3)	算数・数学科研究班	12-7
(4)	理科学研究班	12-8
(5)	外国語活動・外国語科研究班	12-9
VIII	成果と課題	12-10
○	引用参考文献	
○	研究同人	

## I 研究主題と副題

# 「確かな学力を身に付けた児童生徒の育成」 ～各教科等における言語活動の充実を図る授業づくりをとおして～

## II 主題設定の理由

### 1 学習指導要領の改訂から

中央教育審議会答申(平成20年1月17日)では、「言語は、知的活動(論理や思考)だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある」とし、「学校が各教科等の指導計画にこれらの言語活動を位置付け、各教科等の授業の構成や進め方自体を改善する必要がある」と提言している。

また、答申の中で、「習得・活用・探究」という考え方が示された。これらの学習の基盤となるのは言語に関する能力であり、そのために各教科等で言語活動を充実させることが大切である。

言語活動の充実を進めていくことは、授業改善に深くつながる。児童・生徒が自ら課題を設定し、思考したり判断したりしながらそれらを解決していく授業を構成する上では、児童生徒自身の言語活動を活発なものにしていくことが必要である。

### 2 延岡市教育委員会の教育施策から

延岡市教育委員会においては、「21世紀を生きる人づくりのために」という具体的な指針を示し、「基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、自ら学び自ら考える力をはぐくむ教育」の推進に努めているところである。中でも、平成15年度より展開されている「学力向上支援事業」においては、本市学校教育研修所常任研究員により、児童生徒の学力の定着・向上を図るための具体的な方策の研究や取組がなされてきている。

今年度も、「レベルアップ延岡」学力向上委員会を中心に、小中連携による学力の分析と具体的な到達目標の設定、実践・検証を進め、学力向上の改善策を探っている。また、本市学校教育研修所も学力向上の具体的な方策についての実践的な研究が期待されている。

### 3 延岡市学校教育研修所の役割と責任から

昨年度までは、算数科における計算力向上と国語科における「言語力」の伸長のための調査研究と実践、また、家庭学習についての調査研究に取り組んできた。その結果、計算力向上のための教材「パワーアッププリント」の作成と活用及び延岡市計算力テストの実施、音読文集の作成と活用及び音読検定の実施、国語科「ぐんぐんプリント」の開発と活用等、学力向上を支える研究と実践を積み重ねてきた。

本年度は、昨年度までの研究を継続して進めるとともに、新学習指導要領実施に伴う新たな授業づくりに焦点を当て、言語活動の充実のための手立てと方策、習得と活用の考え方の究明と、市内の先生方への情報提供及び授業提案を軸とした、より実践的な研究を進めることにした。

国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語活動・外国語科の5つの班を編制し、それぞれの教科の特性を考慮した研究を進め、授業公開はもちろん、授業改善の手立てについても提案していく。

このことによって、すべての学校で授業改善が図られ、児童生徒の学力が向上し、本市教育の充実・向上に資することができると思う。

## III 研究の目標

1 児童生徒の学力(知識・技能の習得及び知識・技能を活用した高め合い)を向上させるための方策について、各教科等(国語科、社会科、算数・数学科、理科、外国語活動・外国語科)の特性を生かした言語活動の充実の在り方を探る。

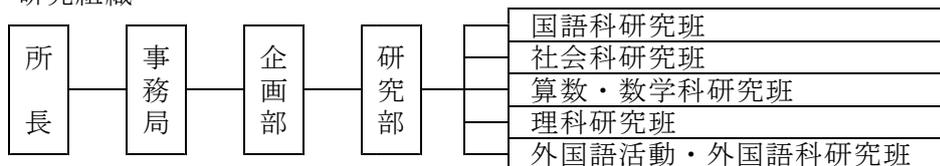
2 延岡市内の小中学校全体の授業の質を向上させるために、「授業モデル」を構築し、授業研究会をとおして成果を広める。

## IV 研究の仮説

1 各教科における言語活動の充実について研究を深め、問題解決的な単元構成を工夫改善すれば、授業改善につながり、学力向上を図ることができるであろう。

2 各教科における習得と活用についての研究を深め、効果的な指導方法を工夫改善すれば、児童生徒の主体的な学習意欲が高まり、学力向上を図ることができるであろう。

V 研究組織



VI 研究の全体構想



## VII 研究内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 習得と活用

確かな学力を育成するために、各教科では基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実することが求められた。さらに総合的な学習の時間等では、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について、各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実が求められ、習得、活用、探究が位置付けられた。

そこで、本研修所では、次のように習得、活用、探究について定義付けを行った。なお、本研修所では、今年度の研究では習得と活用についてのみ進めていくこととする。

習得	～ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせること。「知識」を詰め込むのではなく、「知識」の意味内容を身に付けさせる。
活用	～ 習得した知識・技能をより現実的な、あるいは複雑な事態において使うこと。「理解」の確認は、自分の「理解」をことばによって、文章で表現させることで可能になる。）

#### 【本研究における習得と活用の定義】

#### (2) 言語活動の充実

学習指導要領改訂で、思考力・判断力・表現力等を育成するため、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、観察・実験やレポートの作成、論述など、知識・技能を活用する学習活動を充実するとともに、各教科等の指導に当たって、記録、説明、論述、討論といった言語活動を充実することが示された。

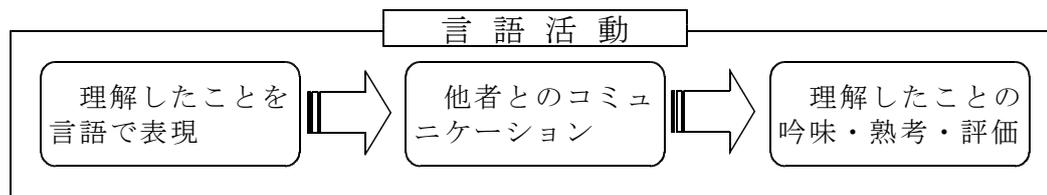
中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月）では、言語活動として次のような例が示されている。（一部抜粋）

- 観察・実験や社会見学のレポートにおいて、視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する（理科、社会）
- 比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する（算数・数学、理科）
- 仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価し、まとめて表現する（理科）

各教科等においては、これまでも、レポートの作成や発表・討論などの活動を行ってきたが、その必要性を十分に理解し、必要に応じて国語科と連携したり、指導計画に位置付け、意図的に指導したり、授業の構成や進め方を改善したりすることが大切である。また、言語活動は、それぞれの教科の知識・技能を活用するものであり、その取組によって各教科の知識・技能の確実な定着にも結びつくものである。各教科におけるこのような取組があってこそ総合的な学習の時間における探究的な活動も充実すると言える。このように、知識・技能の活用や探究がその習得を促進するなど、相互に関連し合って力を伸ばしていくものであると考えられる。

本研修所では、言語活動の充実を次のように整理した。

言語活動とは、狭義では言語を使ったすべての活動を表すが、本研修所では、言語を使った活動を通して、自らの習得、理解を吟味、熟考、評価する学習活動ととらえることにした。なぜなら、言語を使った活動は、今までも授業に生かされており、単にそれらを充実させるだけでなく、言語活動の意味や目的を明確にすることが重要であると考えたからである。吟味・熟考・評価の不十分な理解は、学力が定着しない原因の一つだと考えられる。下の図で示した言語活動の充実を図ることが、確かな学力につながると考えた。



#### 【本研究における言語活動】

2 国語科研究班

〈習得と活用の定義〉

- 「習得」～国語科の5つの領域における基礎的・基本的な知識や技能を身に付けること。
- 「活用」～これまでに身に付けた国語の能力を用いて、自分の考えを表現したり、深めたりすること。

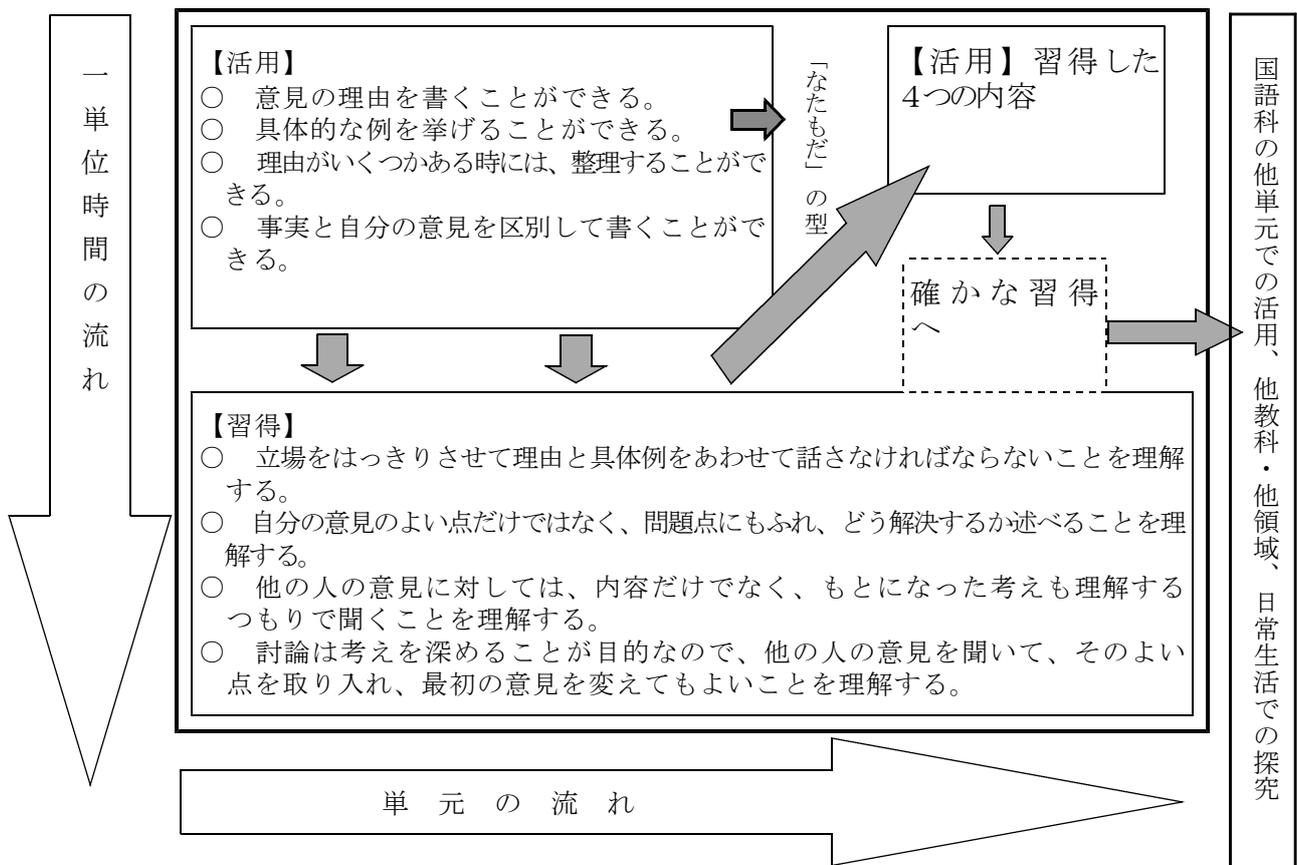
〈言語活動の明確化〉

自分の考えを表現したり、深めたりするために必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などのこと。

(1) 授業改善のポイント

ア 習得と活用について

国語科で「習得」とは、身に付けるべき知識・技能を一単位時間や一単元通して身に付けていくことととらえ、「活用」とは、本時まで身に付けた知識・技能を本時で生かしたり、本時で新たに身に付けた知識・技能が次時以降に生かされたりすることととらえた。以下は第5学年「パネル討論をしよう」の指導の流れである。



イ 言語活動の充実について

国語科は他教科、他領域、日常生活に生きてはたらく基本的な言語力を育てる要としての役割がある。そのため、本時では言語活動の充実のために以下の点をねらいとした。

(小学校の例)

段階	ねらい	言語活動
つかむ見通す	○ 前時までの学習内容の想起 ○ 本時学習の課題設定・確認	○ 前時に学習した具体的な例の書き方(「あなたもだ」の型)に沿って話す。
調べる	○ 資料をもとにした課題の追究	○ 考えた意見の根拠を明確にして述べるため、調べたことをワークシートに整理して書く。(「あなたもだ」の型)
深める	○ 自分と他者との意見の共有	○ 違う意見をもった児童同士で話し合う。

## (2) 「ことばの力」一覧

他学年とのつながりを意識しながら指導するために「ことばの力」を一覧にして整理することで、身に付けさせるべき国語の能力が明らかにすることができた。以下は本時に関わる「ことばの力」一覧である。

月		1年	2年	3年	4年	5年	6年
9月	学習活動 【領域】	はなしたいなをききたいな 【話す・聞く】	スピーチをする 【話す聞く】			話し合いをする 【話す聞く】	
	教材者	・出来事の様子とそのときの 気持ちを、みんなの前で 話し、話を聞いて感想を述べ たり質問をしたりする。 言語活動例：出来事を話し、 質問をする	話したいな、とくいなこと	話したいな、夏休みの出来事	「今の自分」を話します	パネル討論をしよう	問題を解決するために話し合 おう
	ねらい		みんなによくつたわるよう に話しましょう。 友だちの話を、きょうみをも って聞きましょう。	じゅんじょよく、すじ道を立て て話しましょう。 自分のことくらべながら 聞きましょう。	話したいことをはっきりさ せ、材料を選んで話しましょ う。 自分とくらべながら聞きましょう。	自分の立場を明確にして、相 手の意図を考えながら話し 合いましょう。	自分の意見を明確に伝えて、 ほかの人の意図を考えながら 話し合いましょう。
	言葉の力	かぞえうた 国語は、伝言的な国語文化と 国語の時間 ・ものの考えかたについて言葉 をあげ、漢字を正しく読み 書きする 言語活動例：漢字を正しく 読む  おもいだしてかこう【書く】 ・鑑賞したことを思い出して、 会話を取り入れて文章を 書く。 言語活動例：鑑賞したことを 書く  かんじのはなし 国語は、伝言的な国語文化と 国語の時間 ・漢字の取り立ちに興味・関 心を持ち、漢字を正しく読み 書きをする 言語活動例：漢字を正しく書 く	みんなの前で話す ○話したいことをじゅんじょ よく話す。 ○きょうしつのは後ろの人にも 聞こえるように、声の大き さをかたがえて話す。 ○早口にならないように、然 をつける 話を聞く ○話す人を見て聞く。 ○くわしくしりたいことを すすんでたずねる。	スピーチをする ○聞く人によく分かるよう に、じゅんじょよく、すじ道 を立てて話す。 ○聞く人を見て、話がつたわ っているかたしかめながら 話す。 ○話のまとまりごとに関を とったり、たいじな言葉は少 し大きな声で言ったりする など、分かりやすかつたえる ためのくみをする。 スピーチを聞く ○話す人が言いたいことは 何かを考え、自分とくらべ ながら聞く。 ○話す人の顔を見て、うなず きながら聞く。	スピーチをする ○話したいことがよく分か るような材料を選んで話す。 ○話したいことだけでなく、 理由や具体例などもあわせ て話す。 ○たいじな言葉は強調して 話す。 ○たいじな言葉の前後や、新 しい区切りなどで関を取 って話す。 スピーチを聞く ○話す人がいかにぼんぼん 言っているか、考えながら聞 く。 ○自分とくらべながら聞 き、同じだと感じたことや、 ちがうなところを、感 を伝え合う。	パネル討論をする ○意見を述べるときは、立 論をはっきりさせて、理由と具 体例をあげて話す。 ○自分の意見の良い点だけ でなく、問題点にもふれ、ど う解決するか述べる。 ○ほかの人の意見に対して は、内容だけでなく、もとな った考えも理解するつもり で聞く。 ○討論は考えを述べ合うこ とが目的なので、ほかの人の 意見を聞いてその良い点の 取り入れ、最初の意見を 変えてもよい	問題を解決するための話し合 いの 仕か ○話し合いの場かを知る。 ○問題を確かめる。 ○問題の原因を考える。 ○原因を整理して解決の 話し合う。 ○意見をまとめる。 ○反対意見を述べるときは、 具体的な例を 示す。 ○ほかの人の意見が、どのよ うな考えをもとにしたもの か理解する。
言語活動例	・得意な事を話す	・スピーチをする	・今の自分自身についてスピー チをする	・パネル討論を行う	・話し合いの利便に合った話し合 う		

【「ことばの力」一覧表（一部抜粋）】

## (3) 成果と課題

- 「習得」と「活用」を明確にして単元や一単位時間の授業を組み立てることで、既習事項と指導すべき事項との関係を考え、効果的な指導ができた。
- 既習事項を「型」にして使うことで、児童が既習事項の活用を図りやすくなり、児童は自分達の意見と理由を明確にして、意見を主張することができた。
- 「ことばの力」を一覧にし、整理することで、国語科においては、身に付けさせるべき国語の能力が明らかになり、他学年とのつながりを意識しながら指導できた。
- 「ことばの力」を一覧にし、整理することで、他教科においても児童がこれまでに身に付けてきた国語の能力が把握でき、説明等の言語活動において意識的に国語の能力を生かし指導できた。
- 「なたもだ」の型を使うことで、意見をまとめさせることはできたが、児童の表現の幅を狭めてしまったため、その後の話し合いが思ったほど広がらなかった。
- 単元を入れ替えるなどし、資料の活用の仕方について学習させ、本単元に入ったが、最後まで資料の選定が難しく、うまく活用させられなかった。
- 国語科や他教科での言語活動の充実を図るために、「ことばの力」の一覧の活用の仕方を工夫する必要がある。

3 社会科研究班

〈習得と活用の定義〉

- 「習得」～ 社会的な事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に身に付けること。
- 「活用」～ 習得した知識、概念や技能を使用して考えたり説明したりすること。

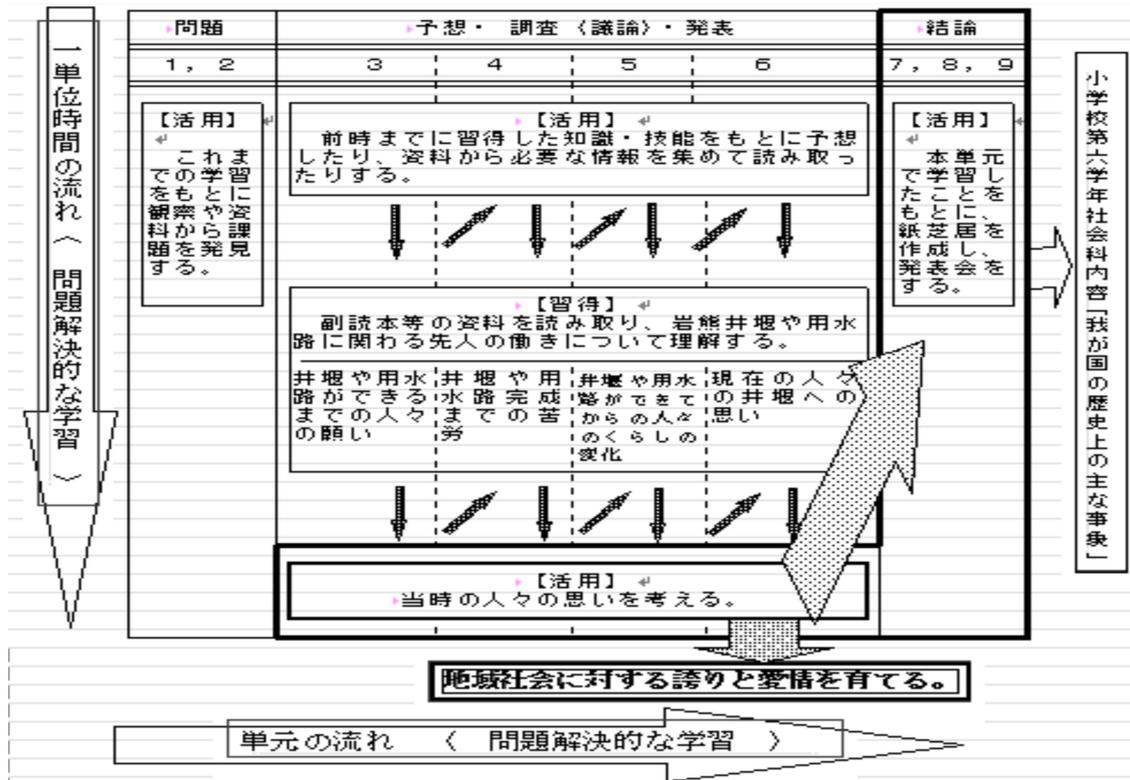
〈言語活動の焦点化〉

問題解決的な学習の過程において、調べたことや考えたことを、自分の言葉で書いたり、説明したりすること

(1) 授業改善のポイント

ア 習得と活用について

社会科の学習は、問題解決的な学習を重視している。習得した知識や技能を問題解決の過程で活用することを通して、より確実な習得を図っていく。以下は第4学年「用水路をつくる（第5次）」の指導の流れである。



イ 言語活動の充実について

問題解決的な学習における、各段階の学習のねらいと言語活動について、以下を基本に指導することにした。(小学校の例)

段階	ねらい	言語活動
つかむ 見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時学習内容の想起</li> <li>○ 本時学習の課題設定</li> <li>○ 課題に対する答えの予想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活経験や既習内容と結び付けて、課題の答えの予想を書く。</li> </ul>
考える 調べる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料をもとにした課題の追究</li> <li>○ 自分と他者との考えの共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料から必要な情報を集めて読み取ったことをワークシートやノートに書く。</li> <li>○ 根拠を示しながら、資料から読み取ったことを話し合う。</li> </ul>
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先人の思いや苦心の想像</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 当時の人々の気持ちを考え、自分の言葉で吹き出しに書き、伝え合う。</li> </ul>

(2) 成果と課題

- 社会科学習における習得・活用の定義付けを行い、それらを明記した指導案を作成したことで、身に付けるべき力が明確になり、指導に生かすことができた。
- 学年や単元に応じた言語活動を整理し、さらに熟考・評価のために言語活動が充実していく手立てを考えていく必要がある。

4 算数・数学科研究班  
 <習得と活用の定義>

- 「習得」～ 計算力、用語・記号などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けること。
- 「活用」～ 習得した知識・技能をもとに考えたり、根拠を明らかにして表現したりすること。

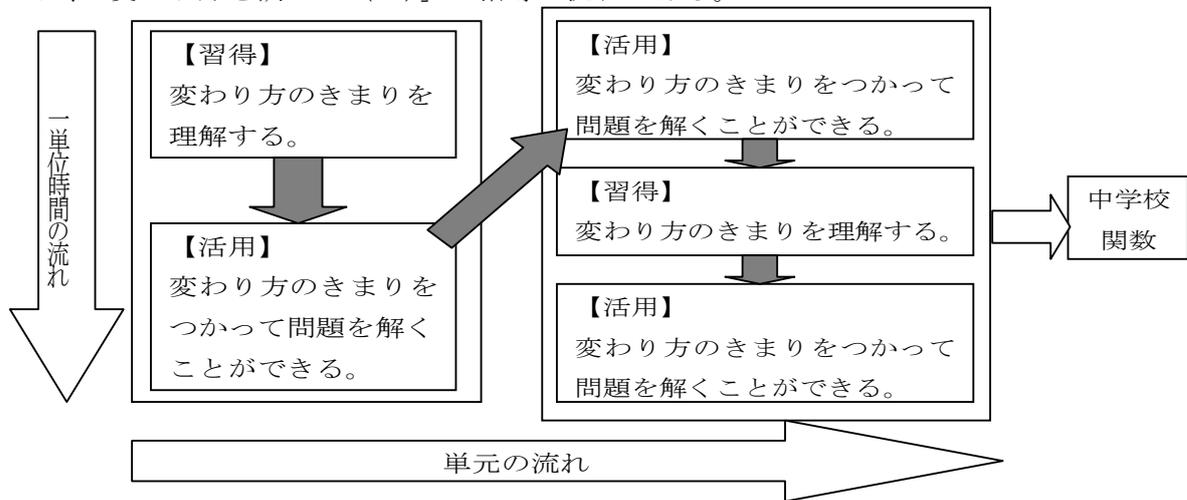
<言語活動の焦点化>

問題解決的な学習の、過程において、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、根拠を明らかにしながら、自分の考えを分かりやすく説明したり、表現したり、伝え合ったりすること。

(1) 授業改善のポイント

ア 習得と活用について

「習得」と「活用」は、相互に関連しており、単元の中で連続性をもたせて指導していかなければならない。さらに、単元や学年の系統性も考えていくことが重要である。以下は、「変わり方を調べて(2)」の指導の流れである。



イ 言語活動の充実において

問題解決的な学習における、各段階の学習のねらいと言語活動について、以下を基本に指導することとした。(小学校の例)

段階	ねらい	言語活動
つかむ (学習課題の設定)	○ 既習内容の復習・確認	○ ノートや掲示物、既習内容をもとに、基礎的・基本的な知識について説明する。
見通す (予想)	○ 問題場面の把握 ○ 答えの予想	○ 生活経験や既習内容と結び付けて問題解決の方法を予想し合う。
調べる 深める	○ 自分と他者の考えの共有	○ 自分の考えを分かりやすく伝え、他者の考えの根拠は何なのかを考えながら聞く。 ○ どの考えが分かりやすく筋道立っているかを考えながら話し合う。(吟味)
広げる まとめる	○ 本時の問題の活用	○ 本時の問題での解決方法を用いて、問題を解く。(熟考) ○ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、分かりやすく説明する。(熟考)

(2) 成果と課題

- 算数・数学科学習における「習得」「活用」の定義付けを行うことにより、それらを意識した指導案を作成し、指導に生かすことができた。
- 言葉や数、式、表などを用いて考えたり、児童同士で話し合い、解決する活動を展開することで、自分の考えを分かりやすく説明したり、意欲的に問題に取り組んだりできた。
- 言語活動の充実を図るために、国語科との関連を考えながら、さらにどのような言語活動を行うことが効果的なのかを検討していく必要がある。

＜習得と活用の定義＞

- 「習得」～科学に関する用語や概念、技能を正確に身に付けること
- 「活用」～科学的な言葉や概念、技能を使用して考えたり説明したりすること

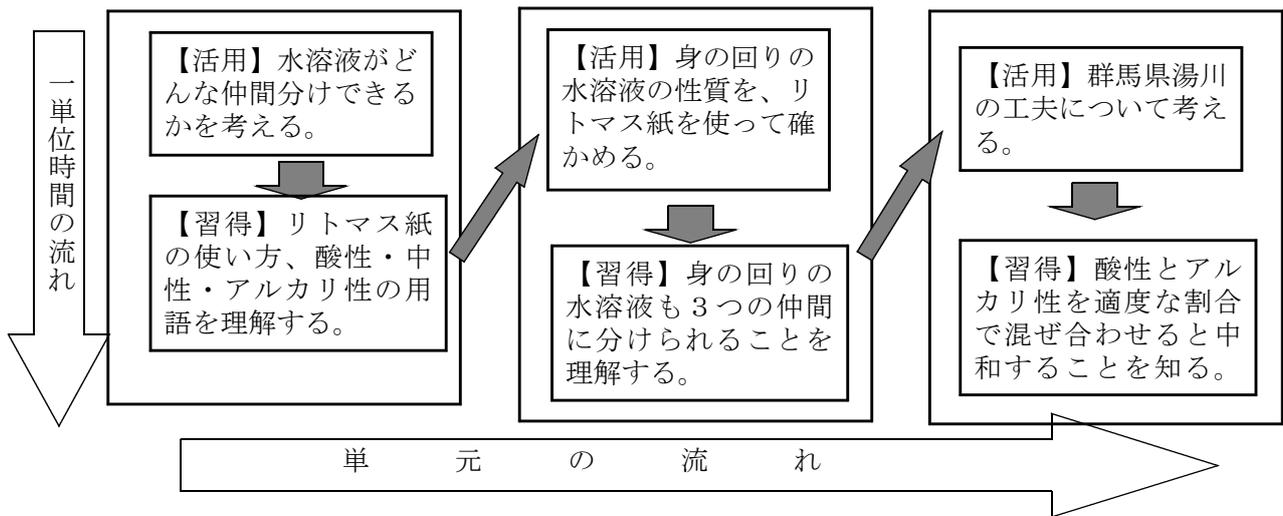
＜言語活動の焦点化＞

問題解決的な学習の過程において、自分の考えを科学的な言葉を使った文字言語・音声言語で説明すること

(1) 授業改善のポイント

ア 習得と活用について

「習得」と「活用」は相互に関連しているので、単元の中で連続性をもたせていくことを基本に考えた。単元または一単位時間の中で習得と活用の場面を整理しておく必要があり、指導計画の中にその内容を組み込んだ。以下は第6学年「水よう液の性質（第一次）」の指導の流れである。



イ 言語活動の充実について

問題解決的な学習における、各段階の学習のねらいと言語活動について、以下を基本に指導することとした。(小学校の例)

段階	ねらい	言語活動
つかむ (学習問題の設定)	○ 演示実験を見ての疑問・気付き (興味・関心) ○ 前時の学習内容 (理解) の想起	○ 生活経験や既習内容と結び付けて説明する。感じたことをつぶやく。 ○ ノートや記憶をもとに説明する。
見通す (計画、予想)	○ 観察・実験方法の思考 ○ 結果の予想	○ 生活経験や既習内容と結び付けて観察・実験の方法や予想を説明する。
観察・実験	○ 目的意識のある観察・実験 ○ 自分と他者の考えの共有	○ 目的をもって活動ができるようグループ内でコミュニケーションを図る。 ○ 観察・実験を通して、気付いたことを他者と話し合う。
考察	○ 観察・実験結果の活用	○ 表、グラフ、図などをもとに自分の考えをノートやプリントに書く。
まとめ	○ 予想から観察・実験を通しての考察	○ 科学的な言葉を使って自分の考えを説明する。

(2) 成果と課題

- ムラサキキャベツの汁を活用した導入により、児童の興味・関心が高まり、学習全体を通して児童の話合いが活発になり、言語活動の充実に結び付いた。特に、考察の段階においてキーワードを与えたことで、科学的な言葉を使ってまとめ、積極的に発表する児童の姿が見られた。
- 実験の前に、身に付けさせたい内容や科学的な言葉を習得させたことにより、実験や考察の段階吟味・熟考・評価しながら、それらの活用を図ることができた。
- 言語活動の充実を図るために、国語科で身に付ける言葉の力をしっかりと把握し、活用させる手立てを工夫する必要がある。

## 6 外国語活動・外国語科研究班

小学校外国語活動では、外国語の技能を習得することが目的ではなく、目的を達成するための手段として位置付けられている。

本研究班では、中学校で来年度から新学習指導要領が全面実施されることを踏まえ、小学校から中学校へ円滑に接続する視点を中心的な課題として捉えた。そこで、小学校外国語活動と中学校外国語科それぞれの特徴を生かした学習活動をどのように展開していけばよいかを提案することにした。

### <小学校外国語活動と中学校外国語科の基本的な考え方>

中学校外国語科を コミュニケーション面で、土台として支える外国語活動の位置付け
--

#### (1) 授業改善のポイント

ア 小学校外国語活動授業づくりの視点と3つのポイント

小学校外国語活動においては、「外国語のスキル」ではなく、「体験的な活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」視点をもつ。

1 学習者中心	2 コミュニケーション重視	3 テーマ中心
---------	---------------	---------

イ 中学校外国語科授業づくりの視点と3つのポイント

中学校外国語科においては、英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を育成する観点から、実際に言語を使用して互いに考えや気持ちを伝え合うなどの学習活動や、文法事項等の言語材料について理解したり練習したりする言語活動の充実を図る視点をもつ。

1 「4技能」をバランスよく育成	2 学習内容の定着・活用	3 コミュニケーション能力の育成
------------------	--------------	------------------

ウ 小学校外国語科年間指導計画の改訂

小中連携の視点で、平成21年度延岡市学校教育研修所常任研究員研修会が作成した「延岡市小学校外国語活動年間指導計画」を改訂した。「中学校外国語科との関連」及び「使用表現等」の項目を新設し、中学校外国語科との接続を明確にした。

#### (2) 成果と課題

- 中学校外国語科との接続を意識した年間指導計画を作成したことで、小学校、中学校それぞれの立場を明らかにすることができ、小学校を踏まえた中学校の指導、中学校を見通した小学校の指導ができるようになった。
- 一単元を通して同じゲームやチャンツをすることで、使用する表現を繰り返し口にし、自分の考えを表現する際に役立てることができた。
- 外国語に慣れ親しみながら外国の言語や文化に関心をもたせる指導を展開し、外国の言語や文化に関する気付きの視点を育てる必要がある。
- 中学校外国語科において学力向上をどのように図るか、具体的な取組を考える必要がある。



## VIII 成果と課題

### 1 成果

- 各教科等における習得・活用・探究の定義付けを行うことにより、それらを意識した指導案を作成することができた。
- 言語活動の充実を図る手立てとして、焦点化を図ったり、結論の吟味・熟考・評価を行ったりすることにより、学習内容と形態に応じた言語活動を取り入れることができた。
- 研究内容を生かし、各教科等それぞれ授業モデルを構築し、公開することによって、教師の指導力向上に寄与することができた。

### 2 課題

- 習得と活用や言語活動の充実が明確に位置付けられた実践を積み重ね、教師の指導力向上を継続して目指していく必要がある。
- 児童生徒の学力の実態と変容を、今後も継続的に調査し、研究を修正していく必要がある。



### ○ 参考文献

- 文部科学省：『学習指導要領』（小学校・中学校・総則編・解説） 2008
- 文部科学省：『初等教育資料』 東洋館出版社 2011
- 文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集』 2011
- 宮崎県教育委員会：平成23年度カリキュラム創造ワークショップ資料
- 兵庫教育大学（株）ベネッセコーポレーション共同研究プロジェクト室：『活用型学習の指導方法及び評価方法の研究』 2010
- 水戸部修治：『言語活動モデル事例集』 2011（株）教育開発研究所
- 延岡市教育委員会『わたしたちの郷土 延岡市』

### ○ 研究同人

- |               |               |              |
|---------------|---------------|--------------|
| 延岡市学校教育研修所 所長 | 橋本 慎朗         |              |
| 事務局長          | 平田 博司         |              |
| 指導主事          | 柳瀬 智文         |              |
| 常任研究員 統括主任    | 篠原 光教（北浦小学校）  |              |
| 武元 あゆみ（延岡小学校） | 榎本 晴彦（岡富小学校）  | 寺原 敬美（旭小学校）  |
| 長田 俊彦（南小学校）   | 片山 真貴（東小学校）   | 松尾 安樹（東海小学校） |
| 飯干 尚（緑ヶ丘小学校）  | 秋月 朋美（川島小学校）  | 黒木 英子（南方小学校） |
| 本藪 忠士（一ヶ岡小学校） | 松浦 俊二（伊形小学校）  | 広瀬 道子（北方小学校） |
| 濱砂 俊洋（延岡中学校）  | 薄井 由貴恵（西階中学校） | 鈴木 裕（南中学校）   |
| 猪目 俊和（東海中学校）  | 関 純子（三川内中学校）  |              |